

評価シート 様式

取組名	隠岐の里山・里海再生を核とした環境産業及び定住・交流促進プロジェクト		
実施団体名	緑のコンビナート実行委員会	対象地域	島根県隠岐の島町
(代表団体名)	隠岐島後森林組合	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたととは判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	隠岐の里山・里海再生を核とした環境産業及び定住・交流促進プロジェクト		
実施団体名	緑のコンビナート実行委員会	対象地域	島根県隠岐の島町
(代表団体名)	隠岐島後森林組合	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、地域でうち捨てられていた間伐材や海藻をバイオマス等に利用することで離島を活性化しようという取組が全国でも例のない先導的な取組であり、事業実施にあたり都市の企業や都市住民との連携を構築するという離島と都市の交流モデルを構築しつつある点が高く評価できる。以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるもとである。
	次年度以降については、バイオマス事業の本格展開に向けて、事業の採算性の確認・事業の管理運営手法の確立が最大の課題であると考えられるため、それらの視点を踏まえた取組の深化及び人材育成に特化して取組を行うべきである。 具体的には、取組①の「木質バイオマス」については低コスト化林業研修や木質チップ生産供給・実証実験に特化して調査を行うべきである。取組②「海洋バイオマス」については本格展開に向けたメタン化の簡易実験に特化すべきである。取組③については本年度の成果が必ずしも明確ではなく、基幹となる取組との関連性も薄いため、実施の要否も含めて抜本的に見直すべきである。取組④の「こだわり特産品」については、今年度の取組を踏まえた体験交流や海産物特産品の実証実験に特化すべきである。